

乗鞍岳 山スキー登山 (2011/5/2-5/3)

寄る歳波に逆らって恒例としてきた 5 月連休の山スキーの計画は、東日本大震災の影響ですっかりモチベーションが萎縮してなかなか決まらなかった。それでも元気を出してと、KC の衣替え作業とセットにして、直前に決めたのが乗鞍岳と御嶽山の日帰りスキー登山のハシゴであった。いずれも、3000m級の頂上にスキーを担ぎ上げることになるが、スキーリフトが営業されていることが前提であった。

乗鞍岳には、過去 2 回年末にスキー登山を試みたが、いずれも天候に恵まれず登頂に至らなかった。今回は 3 回目のトライである。出発の前、三滝さんからは「五月連休に乗鞍岳の東斜面が雪崩れたことがあったので要注意」とのアドバイスをいただいた。

◎ メンバー：L青景平昌 (記録)、笹川雅史、和田穰二

◎ 日程：2011 年 5 月 2 日 (月) ~5 月 3 日 (火)

5 月 2 日； KC⇒三本滝駐車場⇒位ヶ原山荘⇒位ヶ原トイレ小屋 (2400m) ⇒カモシカ平⇒三本滝駐車場 (テント泊)

5 月 3 日；三本滝駐車場⇒かもしか平⇒位ヶ原⇒肩の小屋⇒乗鞍岳剣が峰 (2967m) ⇒ 位ヶ原⇒カモシカ平⇒三本滝駐車場⇒湯けむり館⇒KC

5 月 2 日 (月) (晴)：KC 発 (6:00) ⇒(8:00)三本滝駐車場 (1820m 8:40) ⇒ (11:50) 位ヶ原山荘 (12:20) ⇒位ヶ原トイレ小屋 (2610m 14:55) ⇒ (16:15) 三本滝駐車場 (テント泊)

事前のチェックでは、乗鞍高原スキー場の最上部のリフトは営業中とあったので、営業開始に合わせて、朝 6 時に車で KC を出発する。KC の衣替え作業は残っていたが、後から到着の石田組に託しての逃避である。早朝にもかかわらず、朝食を用意していただいて恐縮でした。

予定通り 8 時に乗鞍高原スキー場の最上部の三本滝駐車場 (1820m) に着く。位ヶ原山荘まで除雪されているが、一般車はここ



写真 1 三本滝駐車からグレンデを望む

で交通止めである。ゲレンデ最上部のカモシカコースの雪は途中で切れ、リフトはすでに撤去されていた。その代わりに、斜面下部にボーダー用ゲレンデが造成され、わずかにTバーリフトが仮設されているだけであった。また、位ヶ原山荘までのバスは1日3便運行しているが、8時代の始発バスは路面凍結のため運休となっていた。当てしたリフトもバス使えないので駐車場には待機する人が多いなかを、往年のプライドから当然のようにスキーを担いで登ることにした。

カモシカコースは最大斜度35度とあり、つぼ足で直登するには急である。コースの途中でゲレンデを横切る舗装道路に出ると、ついつい歩き易い道路に迷い込んでしまった。そのために、延々と位ヶ原山荘までを除雪回廊となった車道をスキー靴で辿る破目になった。それでも、笹川、和田の両名は元気に快調に飛ばす。前夜から喘息気味の青景は息が続き、徐々に引き離されていった。そして悔しいことに、位ヶ原山荘に着く手前で、11時過ぎに発車した2番手のバス3台に追い抜かれてしまった。

位ヶ原山荘は、前泊の人やバスで到着した人らでごった返していた。ほとんどの人は位ヶ原山荘から富士見岳や摩利支天岳の斜面に向けて直登している。我々は



写真2 カモシカコースのゲレンデを行く



写真3 除雪回廊を位ヶ原山荘に向かう



写真4 摩利支天をバックに位ヶ原にて

そのまま除雪されていない車道を辿って、位ヶ原に向けシール登高を開始した。年末に比べると、積雪は格段に豊富である。途中、山スキーのツアーコースの分岐点を確認して、一路、肩ノ小屋に向けて雪原を進む。しかし、先頭の笹川さんが待ちくたびれていたトイレ小屋（2610m）付近に最後の青景が到着したのが午後 3 時であった。本日はここまでとして、明日登頂を狙うことにする。ここから



写真 5 ツアーコース入口の斜面

は、三本滝駐車場（1800m）までの高度差 800m のスキー滑走である。途中、ツアーコースの入口と出口に急な傾斜があるが、思い思いに 1 時間 20 分のダウンヒルを楽しんだ。

明日は、バスを当てにすることなく、登頂を目指して早朝に出発することにする。湯けむり館まで降りて温泉と食事をし、三本滝駐車場にてテント泊とした。

5 月 3 日（火）（晴のち曇り）：三本滝駐車場（1820m 5:40）⇒かもしか平⇒位ヶ原（9:40）⇒肩の小屋（2780m 11:00）⇒（13:40）乗鞍岳剣が峰（3026m 13:50）⇒位ヶ原⇒カモシカ平⇒（15:10）三本滝駐車場⇒湯けむり館⇒KC

早朝に駐車場に到着した車のエンジン音で目が覚めた。昨日の失敗から、5 時出発を目途に準備をしていると、近くの車の人が、「バスは必ず運行するから、8 時まで待った方が楽ですよ」と誘惑してくる。それを振り切って、5 時 40 分にグレンデの直登を開始する。つぼ足である。今回はリフト支柱に沿ってカモシカ平まで登る。途中横切った舗装道路の路面は、嬉しいことに凍結していた。始発バスは間違いなく運休だと確信した。

リフトトップのカモシカ平には雪がたっぷり残っていた。ここから樹林帯を切り開いたスキーツアーコースに入る。コース入口の急斜面を登ってからシール登高を開始した。好調の笹川さんをトップにピッチを刻むが、青景は不調で徐々に取り残さ



写真 6 ツアーコースのシール登高

れてゆく。位ヶ原へ登る急斜面で、先行の二人が見えなくなってしまう。位ヶ原に出ると先行の笹川、和田は遥かに先行している。右手の摩利支天の斜面には、位ヶ原山荘からのボードを背負った一団がぞろぞろ蟻の兵隊の如く登ってくる。左手の乗鞍岳の斜面にも肩ノ小屋から頂上を目指す一団が繋がっている。いずれも、ほとんどがスキーやボードを持っている。この時期、乗鞍は春スキーのメッカなのだ。

肩ノ小屋前 (2781m) で待っていた笹川さん、和田さんにやっと合流したのは 11 時 10 分であった。ここから笹川さんをトップに、朝日岳 (2975m) を直登し、途中から朝日岳と剣が峰 (3025.6m) の火口縁のコルを目指してトラバースした。上部の傾斜は 30 度程度か。到着した火口縁のコルから剣が峰の乗鞍神社が見える。ここを源頭とする沢にドロップインすることにして、スキーをデポして乗鞍神社までの火口縁をアイゼンで辿る。途中にも沢があるが、雪は少し柔らかく積もっており、ここから滑り込むのが一般的らしい。三滝さんの言う東側斜面は、さらに吹き溜まり側となるので、雪はもっと柔らかいかもしれない。剣が峰の祠に着いたときには、先行者はすで滑り降りて閑散としていた。

スキーデポ地点から、笹川、青景、和田の順に滑りこんだ。傾斜

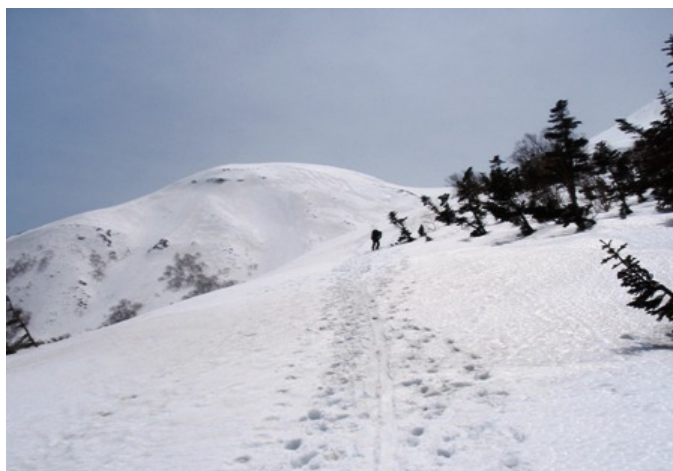


写真7 位ヶ原への最後の登り
(高天原の頂が見える)



写真8 朝日岳の斜面を登る

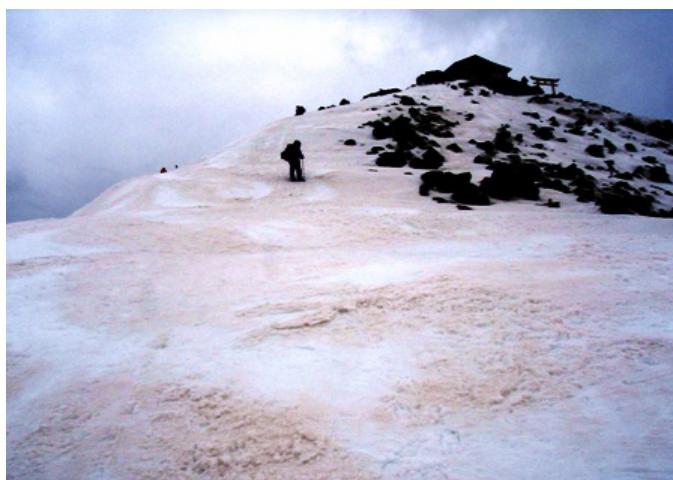


写真9 火口縁から剣ヶ峰の祠を望む

といい、雪質といい、天候といい、快適なスキーであった。トイレ小屋の近くで合流したのち、昨日と同じコースを辿ることになる。トップの笹川さんはサッサと駐車場まで一気に滑っていった。最後に到着した和田さんの「十分に滑ったから、これで終わりましょう。」の一言に、皆思わず賛同してしまった。



写真 10 乗鞍岳頂上・剣ヶ峰にて

というわけで、御嶽山の計画は止めにしてしまった。湯けむり館の温泉に浸かって、石田組への挨拶のために KC に引き返すことにした。

乗鞍に出発する前に、小林さんと HAKUBA47 で小雨のなか半日練習した。そのとき、小林さん曰く、「君らの報告を読むと、いつも笹川がバテとるようだ」。しかしながら、今回は、笹川さんは絶好調でした。最も速く頂上に達し、頂上から駐車までを嬉々として滑りきった。和田さんとの会話、「笹川さんはどうして山スキーではバランスがいいんですかネ」、「彼は高校時代、黒帯をして柔道しとったからな」。名誉のために付け加えておきます。

以上